

保育士のいる屋根付き 公園「子育ての駅」

新潟県
長岡市
(ながおかし)



人口：281,411人（H25.3末）
特徴：米百俵のまち。日本一の大河・信濃川が市内中央を流れ、守門岳から日本海まで市域が広がる。

長岡市は、旧長岡藩の城下町として栄えるが、戊辰戦争と長岡空襲による壊滅的な被害や、水害・中越大震災などの繰り返す自然災害に苦しんできた。しかし、その度に「米百俵の精神」（戊辰戦争後、「食えないときこそ教育を」の信念で支援物資である米を売り、学校開校の資金に充てた逸話）で市民一丸となり、復興してきた。この精神は現在まで引き継がれ、全国に先駆けて、ひとつづくりと市民協働の伝統に根ざすまちづくりを目指している。

その一つとして、信濃川に隣接する緑あふれる広々とした公園の中に、全天候型の運動広場と子育て支援機能を併せ持つ施設を一体的に整備した「子育ての駅」がある。単なる子どもの遊び場ではなく、多世代が交流でき、保育士が常駐して子育て相談・講座を行うなど、子育て世代の意見を取り入れながら、地域社会全体が子どもを育む力を高めるまちづくりを行っている。

冬でも「のびのび」遊べる場を

長岡市は日本海側の豪雪地帯であり、冬は子どもが外で遊ぶ場が少なく、「冬場や天気が悪い日でも、子どもたちを安心して遊ばせるスペースがほしい」という声が多く寄せられた。

そこで、平成13年に長岡駅前の空き店舗スペースを活用し、「子育ての駅」の原型となる「ちびっこ広場」を開設したところ大変好評だった。また、市民のニーズ調査を行ったところ、育児不安を抱える保護者が増えており、子育て相談や親同士の交流の場を求める声が多かった。

このような市民の声を踏まえ、家に閉じこもりがちな降雪期でも、気軽に集い、交流できる場として、平成21年5月、全天候型の広場と子育て支援施設を一体化した「子育ての駅てくてく」を開設した。



子育ての駅てくてく 全景



子育ての駅てくてく 運動広場

「子育ての駅」

子育て世代だけでなく、多世代・多分野・多文化の人々が交流し、ふれあいを深めることを通じて、子どもたちの成長を育み、子育て支援、人と人とのコミュニケーションの輪が広がっている。

また、施設内には保育士が常駐し、子育て相談に応じている。さらに、一時保育施設を併設し、周辺のショッピングセンターや病院に出かける際に利用できることが市民に好評である。

運営についても、より良い施設運営を行うため、子育て中のお母さんで構成される「子育ての駅運営委員会」を設置するとともに、「子育ての駅サポーター」と呼ばれる、高校生から子育ての先輩まで幅広い世代のボランティアの協力を得ており、世代を超えてつながる子育て応援を進めている。

年間26万人の利用者

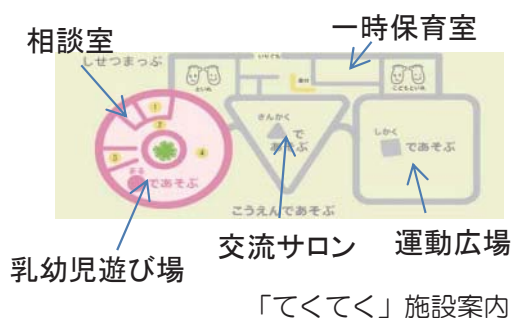
このほか、平成22年4月、防災拠点と子育て支援施設を一体化した「子育ての駅ぐんぐん」をオープンさせるなど、市民目線で特色のある「子育ての駅」を整備している（現在、4施設）。

これら「子育ての駅」は、年間26万人以上の親子に利用されている（平成25年度）。

地方分権改革との関連

住民に身近な市役所が、「子どもが冬でものびのびと遊べる場を」という子育て世代の切実な声を受けて、子育て支援と公園整備の分野を横断して検討し実現した政策。

地域課題の解決に当たっては、当事者である住民の声に真摯に向き合うことが、住民自治の基本である。



「てくてく」なかよしタイム



「ぐんぐん」中学生と赤ちゃんのふれあい

関係者からのメッセージ



今回「子育ての駅」が実現したのは、子育て支援と公園整備の分野が一緒になって検討を進めた結果と言えます。行政の縦割りの発想に縛られず、多様化・複雑化している市民ニーズの変化に対応するためには、市の横断的な視点が何より必要です。

長岡市としては、今後も行政と市民が一つになり、子どもたちに関わる者が連携しながら、笑顔あふれる子どもたちの成長と子育て支援の輪が広がるよう応援していきます。

（長岡市教育委員会子育て支援部長 若月 和浩氏）